

主体的に生活をよりよくしようとする態度を育む指導の工夫

—— 小学校、中学校の学びの連続を通して ——

家庭、技術・家庭科研究会議

研究員 織井 美雪（川崎市立川中島小学校） 川口 仁美（川崎市立富士見台小学校）

根津 晶子（川崎市立有馬中学校） 加藤 衣梨佳（川崎市立宮内中学校）

指導主事 野田 まなみ

I 主題設定の理由

現行の学習指導要領に改訂されるにあたり、家庭科、家庭分野では、小学校、中学校の内容の系統性や連続性を重視し、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点や、自己の生活の自立を図る視点から、内容が構成されるようになった。小学校と中学校の内容構成がAからDの同一の枠組みとなったことで、小学校では中学校での内容を見通し、中学校では小学校の学習を基盤として発展させた題材を構成することが重要となる。

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能、技術を身に付けることが家庭科、家庭分野の共通のねらいである。そこで、5年間を見通して、家庭生活を主体的にとらえ、生活をよりよくしようとする態度を育成することが大切であると考えた。本研究会議では、家庭生活を「今」だけの点でとらえるのではなく、成長の振り返りやこれからの生活の展望、家族や地域の人々とのつながりなど、線や面でとらえて、自分が生活の主体者として、生涯にわたる家庭生活の基盤となる力を身に付けられる題材の工夫が必要であると考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究のねらい

児童生徒の主体的な学習活動をすすめる上で、児童生徒の発達段階に応じ、興味・関心を高めるとともに、小学校家庭科と中学校技術・家庭科（家庭分野）との連続性や系統性を重要視しなければならない。家族や食生活の学習は系統性をもって取り組まれている事例が多く見られるため、本研究会議では、小学校「C快適な衣服と住まい」と中学校「C衣生活・住生活と自立」、小学校「D身近な消費生活と環境」と中学校「D身近な消費生活と環境」の内容で、小学校・中学校の学習のつながりがある題材計画を考え、授業実践を行うこととした。

2 研究の方法と内容

（1）小学校の内容と中学校の内容のつながりの洗い出し

学習指導要領解説に記述されている内容と実際の題材の指導計画で実践している内容の中で、小学校の学習から中学校の学習へつながるものや、小学校の学習を踏まえて中学校で学習するものについて洗い出し、指導計画に生かすこととした。小学校と中学校の内容を一覧表にすることで、例えば、小学校の「衣服の働きと快適な着方の工夫」での「保健衛生上の着方と生活活動上の着方」が、中学校の「衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫」での「社会生活上の機能を中心とした着用の工夫」につながっていることが見えてきた。

(2) 研究の実際 (検証授業)

①川崎市立A中学校 題材名「賢い消費者になろう」【D (1) アイ】

小学校「めざせ! 買い物名人」【D (1) アイ】とのつながり

ア 指導と評価の計画

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
1	<p>「賢い消費者になるために消費者としての自覚をもとう」</p> <p>○身近な販売に関心を持ち、販売方法の特徴について理解することができる。</p> <p>小学校の学習とのつながり</p> <p>○物や金銭の大切さに気づき、有効な使い方を理解する。</p> <p>・消費生活を振り返り、購入するときに困ったり思ったりすることについてあげる。</p>	<p>・身近な販売方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p>	<p>小学校の学習とのつながり</p> <p>○自分の生活との関わりから、物や金銭の使い方を理解している。</p> <p>○物や金銭の大切さに気づき、品質や値段を考えた物の選び方や買い方について理解している。</p>	<p>・中学生に関わりの深い販売方法について理解している。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・ペーパーテスト</p>	
2 3	<p>「購入プランを考えよう」</p> <p>○電化製品を選択するための情報を収集整理することができる。</p> <p>・家族構成を考え、必要な電化製品を選び、購入プランを考える。</p>	<p>小学校の学習とのつながり</p> <p>○よりよい買い物をするためのポイントを理解し、自分が購入するものの選び方、買い方を考える。</p>	<p>・目的に応じた電化製品の選択について考え、工夫している。</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p>	<p>・電化製品を選択するための情報を収集・整理できる。</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p>	
4	<p>「消費者トラブルを解決する方法を知ろう」</p> <p>○物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けることができる。</p> <p>・身近な消費トラブルをあげ、消費者の権利や責任、対処法などについて考える。</p>	<p>小学校の学習とのつながり</p> <p>○購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。</p>	<p>小学校の学習とのつながり</p> <p>○自分や家族の消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。</p> <p>・ワークシート</p>	<p>・消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。</p> <p>・物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・ペーパーテスト</p>	
5	<p>「よりよい消費生活を目指して」</p> <p>○自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費の在り方を改善しようとしている。</p> <p>・これまでの学習を踏まえ、自分の消費行動を振り返り、よりよい消費生活について考える。</p>	<p>小学校の学習とのつながり</p> <p>○自分の生活や目的に合った物の選び方・購入の仕方について、自分なりに工夫している。</p>	<p>・ワークシート</p>		

イ 振り返り

小学校では、児童が使う身近な物について取り上げ、購入しようとする物の品質や価格などの情報を集めることを通して、「物の選び方や買い方」を考え、「目的に合った品質のよい物を選んで適切に購入」できる学習をしている。このことを踏まえ、中学校では、「物の選び方や買い方」の学習が、「販売方法、物資・サービスの適切な選択と購入」を活用して考えられるように発展させた。また、「目的に合った品質のよい物を選んで適切に購入」の学習が、「二者間の契約」、「消費者の権利」を学ぶことで、商品を購入することは、選ぶ権利であるとともに、責任を伴うことであるということ気付かせ

ることができた。さらに、家族構成、生活様式、住まい方を想定し、自分がその家族の一員であると考え、**「おばあちゃんがいつも掃除をしているので、コンパクトで軽い掃除機を選ぶ」「家族が多いので、何回も洗濯するのは大変だから、容量が大きくて価格が安い物を選ぶ」**など、自分の生活を振り返りながら主体的に学習を進めることができた。

②川崎市立B中学校 題材名「快適な住まいのアドバイザーになろう」【C（2）アイ】

小学校「工夫しよう、快適な生活」【C（2）イ】とのつながり

ア 指導と評価の計画

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
1	<p>「住まいの役割を考えよう」 ○住居の基本的な機能を理解することができる。</p> <p>・自分の生活を振り返り、住まいがなくなると困ることを挙げる。</p>	<p>・自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p>	<p>小学校の学習とのつながり ○季節に合わせた生活の仕方に関心を持ち、快適な住まい方について考えようとしている。</p>		<p>・住居の基本的な機能について理解している</p> <p>・ワークシート</p> <p>・ペーパーテスト</p>
2	<p>「住まいにはどんな空間がある？」 ○自分や家族の住空間と生活行為との関わりに関心をもつ。</p> <p>・自分や家族の住空間と生活行為との関わりについてまとめる。</p>				
3 4	<p>「快適な住まいを考えよう」 ○家庭内事故の防止、自然災害への備え、室内の空気調節や音と生活との関わりからの視点から、快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法を理解することができる。</p> <p>・快適でない住まいの条件を出し、その解決方法を考えることで快適な住まいの条件を理解する。 (※家庭の室内環境の問題点や危険箇所について調べてくる)</p> <p>・教室の室内環境の問題点を見つけ、室内環境の整え方に関する具体的な方法を話し合い、発表する。</p>	<p>・安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p>	<p>・室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p>		<p>・家庭内事故の防止、自然災害への備え、室内の空気調整や音と生活との関わりについて、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法を理解している。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・ペーパーテスト</p>
5	<p>「快適な住まいのアドバイザーになろう！」 ○事例の家族について、安全で快適な室内環境の整え方や住まい方を考え、工夫することができる。</p> <p>・事例に合った室内環境の問題点を見つけ、課題を決め、解決方法を具体的に考える。</p>				
6	<p>「我が家をもっと快適にしよう！」 ○自分や家族の住空間について、安全で快適な室内環境の整え方や住まい方を考え、工夫することができる。</p> <p>・家庭の室内環境の問題点を見つけ、課題を決め、解決方法を具体的に考える。</p> <p>・グループで発表し合い、さらに修正案を考える。</p>	<p>小学校の学習とのつながり ○自分や家族がより気持ちよく過ごすために自分でできることを工夫することができる。</p>			

イ 振り返り

小学校では、暑さ・寒さへの対処の仕方及びそれらと通風・換気との関わり、適切な採光の必要性などについて、自然をできるだけ生かした、より快適な住まい方について学習している。このことを踏まえ、中学校では、「暑さ・寒さ、通風・換気及び採光に重点を置いた快適な室内環境の整え方」の学習が、「家庭内事故の防ぎ方」「自然災害への備え」「室内の空気調節」「音と生活とのかかわり」について学ぶことで、安全に重点を置いた室内環境の整え方に発展することができた。

また、自分の視点と家族の視点で、快適な住まいについて課題をあげることで、「冬はお母さんが、こまめに部屋の窓を開けている」「小さい子がいるとお風呂に水を張っておくと危険だと思ったけど、地震が起きたときには水が必要なのでお風呂の水があつたほうがよい」など、自分だけではなく、家族がいる中での住まい方について考えることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究を通して見えてきたこと

将来にわたって変化し続ける社会で、主体的に対応をしていくためには、生活を営む上で出てくる課題に対して、自分なりに判断をして課題を解決する、問題解決能力をもつことが必要である。そこで、題材計画の中に意図的に、児童生徒が自分の生活をじっくり見つめ、そこから見えてくる課題を自分のものとしてとらえられる学習を繰り返し入れることが大切となる。

小学校では小学校だけの生活、中学校では中学校だけの生活を振り返るだけでは、自分と家庭生活、家庭生活と社会の時間軸、今までの成長や生涯の見通しの空間軸での広がりや深まりがもてないことがわかった。小学校では、1年生から4年生までの学習を家庭科に生かし、中学校への見通しをもった題材指導計画を作成することで、児童が自分の課題を他と関連させて考えることができ、家族の一員として、生活をよりよくするための手立てを具体的に考えることができるようになることがわかった。また、中学校では、小学校での学習を理解し、繰り返すのではなく、その学習を基盤として、学んだことが活用できる発展的な題材指導計画を作成することで、自分や家族に関心をもち、生活の課題を主体的にとらえ、実践を通して身に付けていこうとする態度が育つことがわかった。

今までの生活を振り返り、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくする力を育てるために、小学校、中学校の学びの連続を大切にしたい5年間を見通した指導計画の作成が必要であると考えた。

2 今後の課題

さらに、小学校の内容と中学校の内容の、系統性・連続性について見直しをし、児童生徒が主体的に学習できる題材の設定、構成について研究を深めていきたい。また、各学校で取り組めるよう、小学校と中学校の学びの連続の重要性について、各研究会、部会を通して周知していきたい。

最後に、研究を進めるに当たり、ご指導、ご助言をいただきました先生方、研究をご支援いただきました所属校の校長先生をはじめとする教職員の皆様には、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【指導助言者】

前川崎市立日吉中学校長

中島 みどり

川崎市立小学校家庭科教育研究会長（川崎市立鷺沼小学校長）

鈴木 真優美

川崎市立中学校教育研究会技術・家庭科部会長（川崎市立京町中学校長）

櫻井 恵